

複数記述修正求める

検討委回答案で委員

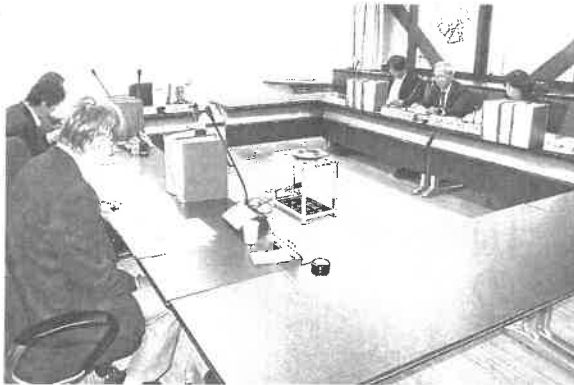


東北誘致

【東京支社】14日に開かれた日本学術会議の国際リニアコライダー(ILC)計画に関する検討委と分科会の合同会議では、誘致実現に向けたさまざまな課題を突く回答案が示された。一方、科学者間の合意形成の現状など複数の点に関して、記述の修正を求める意見が委員から上がった。今後、さらに検討を加えて見解を固め、最終段階の政治判断に委ねられる。

【本記1画】

ILCの主要な研究課題に比べ優先性を有する場合は、状況にない」と記述。これとなるヒッグス粒子の精密測定について回答案は「素粒子物理学の他の研究課題」として回答案は「素粒子物理学の他の研究課題」



文部科学省への回答案を協議する検討委員会のメンバー

すぎる」と修正を求める意見が出た。

国際経費分担について「見通しなしに日本が誘致決定に踏み切るのは危険」との記述には「日本政府の意思表明後でない」と通正な経費分担の交渉はできないという意見もあり、さらに協議が必要だ」との問題提起がなされた。

否定的側面の強調懸念

東北、県推進協が連名談話

国際リニアコライダー(ILC)誘致を巡る14日の日本学術会議の検討委員会の受け、東北ILC推進協議会の高橋宏明代表らは「新たな科学技術の可能性を狭めているのではないかと懸念している。最終答申が研究者と社会が一体となった科学技術立国の実現の後押しとなることを願う」との談話を出した。

高橋代表と原ILC推進協議会の谷村邦久会長の連名で「ILCが持つ、国際科学技術プロジェクトへの日本の新たな挑戦という高

起がなされた。検討委は今後、最終案をまとめ、日本学術会議の幹事会の了承を経て文部科学省に提出する予定だが、慎重な意見となることが予想される。

超党派のリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟(会長・河村建夫衆院

議員)は誘致実現に向け、政府への働き掛けを強める方針。幹事長の塩谷立衆院議員(自民党)は「日本学術会議の決定が政府の最終決定になるわけではない」と語り、政治判断による実現を求めていく姿勢だ。

連名知事は「長年取り組んできた県からすると大変意外だ。ILC実現を目指す国民的運動や国際的な対話も進展しつつあり、政府の前進的な判断に向け全力で取り組む」、宮城県の前向きな判断を支持した。井嘉浩知事は「国に前向きな判断をしていただきた」とコメントを出した。

東北市長会も省庁回り要望

【東京支社】東北市長会(会長・谷藤裕明盛岡市長)は14日、自民党本部と省庁を回り、東日本大震災からの復興事業の実態に即した財政支援や復興庁の後継組織設置、国際リニアコライダー(ILC)の誘致実現などを要望した。

自民党本部では谷藤氏らが岸田文雄政調会長に要望書を手渡した。総務省では地方一般財源総額の確保、復興庁では東北電力福島第1原発事故への対応に対する財政支援などを求めた。会長就任後、初めて省庁要望を行った谷藤氏は「東



岸田文雄政調会長(中)に要望書を手渡す谷藤裕明会長(左から2人目)

北の思いを関係省庁に伝え、一歩でも一歩でも前進するよう汗をかいていきたい」と語った。

県市長会(会長・谷藤市長)も同日、文部科学省などにILCの誘致実現を要望した。副会長の上田東一花巻市長と遠藤謙一久慈市長らが「ものづくり産業の発展、日本再興に寄与する。国内誘致を早期に実現して

ほしい」と訴え、藤原誠事務次官は「学術会議の議論を踏まえて対応したい」と述べた。